

実践報告

大学と地域が連携したパラリンピック教育活動 ～ 2021 年以降の継続的な取り組みを見据えて～

A collaborative project between a university and a local community:
Vision of continual engagements in Paralympic education after 2021

安藤 佳代子 児玉 友 三井 利仁 藤田 紀昭 吉田 文久

Kayoko ANDO, Yu KODAMA, Toshihito MITSUI,

Motoaki FUJITA, Norihisa YOSHIDA

日本福祉大学 スポーツ科学部

Faculty of Sport Sciences, Nihon Fukushi University

1. はじめに

公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会（以下、東京 2020 組織委員会）では、2017 年度より教育プログラム「ようい、ドン！」を実施している。そして、東京 2020 教育プログラムの一環としてオリンピック・パラリンピック教育（以下、オリパラ教育）に取り組む学校を東京 2020 組織委員会が認証する制度として東京 2020 教育プログラム学校事業認証が行われている。認証を受けた学校は「ようい、ドン！スクール（愛称）」として登録され、2020 年 10 月 1 日時点で各都道府県・政令指定都市、日本国外の学校で合計 18,887 校あり、全国的にオリパラ教育が実施されている現状である（東京 2020 組織委員会、2020）。

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会（以下、東京 2020 大会）の開催地域である東京都では、都内の公立学校をオリンピック・パラリンピック教育推進校として指定し様々な教育活動が実施されている。東京都以外の地域では、スポーツ庁が推進している「スポーツ・フォー・トゥモロー等推進プログラム」の一環としてオリンピック・パラリンピックムーブメント全国展開事業が行われ、オ

リパラ教育が全国で展開されている。実施事例で最も一般的な内容としては、オリンピックやパラリンピアンへの講演や実技指導を行ってもらうことである。現時点では東京都やスポーツ庁から委託を受けた都道府県にはオリパラ教育のための予算が配分されており、その予算でオリンピックやパラリンピアンを招聘していると考えられる。吉武（2020）は、東京 2020 大会後については予算の削減が予想されるため、オリンピックやパラリンピアンを招聘せずともオリパラ教育の実践方法を検討しておく必要があると述べている。

そこで、スポーツ庁が実施しているオリンピック・パラリンピックムーブメント全国展開事業とは異なる位置づけで、東京 2020 大会以降を見据えたオリパラ教育の取り組みとして日本福祉大学と地域が連携して進める教育活動について、2018 年の計画段階から実施までの取り組みを報告する。

2. 対象地域と連携部署

1) 対象地域

対象地域は、本学が設置されている愛知県知多郡美浜町（以下、美浜町）である。美浜町は、東京

2020 オリンピック・パラリンピックホストタウン事業としてシンガポール共和国と文化・スポーツ交流を実施しており、2020年6月4日にシンガポール国立パラリンピック連盟との覚書を締結している。その目的は、「シンガポール共和国から多くの選手やその関係者及び観光客が来日するこの機会に、本町との人的・文化的な交流を図り、共生社会の実現に向け、大会後も友好的な交流が継続すること」としている（美浜町、2020）。

パラリンピック教育関連での活動としては、2018年度に東京2020オリンピック・パラリンピックホストタウン事業の取り組みとして、2018年6月19日～22日の日程で「あすチャレ！School」¹⁾を町内4校（車いすバスケットボールとゴールボール）の事業実施と教職員研修会1回が行われた。

2) 連携部署

連携部署は美浜町教育委員会であり、美浜町内の小学校6校、中学校2校を統括する部署となる。美浜町教育委員会が実施する校長会での決定で美浜町内の小中学校の活動や方針等が決定する。

3. 美浜町内パラリンピック教育の計画から実施までの取り組み

1) 大学としての活動を承認

2018年度日本福祉大学教育改革推進公募制度に「パラリンピック教育の実践」として申請し採択された。教育改革推進公募制度とは、本学の教育の質的向上を目的とした教育改革関連の取組として承認されると支援費を獲得できる学内制度で、地域連携を含めたパラリンピック教育の実践が学内で承認された。期間は2018、2019年度の2年間であった。美浜町でのパラリンピック教育活動は教育改革推進公募制度の一部として実施された。本報告内容は美浜町内でのパラリンピック教育活動のみを抜粋して報告する。

2) 美浜町教育委員会との連携

2018年4月から打ち合わせを複数回実施し、2018年度は1校のみでパラリンピック教育の実施を計画することとなった。また、2018年8月に行われた美浜町教員講習会では「障害理解」をテーマ

に本学にて講義と実技を実施した。講師は本学教員が担当した。2018年11月に行われた校長会にて2019年度のパラリンピック教育活動が承認され、美浜町内全ての小中学校で実施することが決定した。承認された内容の詳細は「3. 美浜町内パラリンピック教育の実施内容」に示す。

2019年度的美浜町教員講習会では「パラリンピック教育研修会」として本学にて講義と実技を実施した。講師は、日本財団パラリンピックサポートセンター推進戦略部後藤氏であった。日本財団パラリンピックサポートセンター推進戦略部は、国際パラリンピック委員会（以下、IPC）公認教材「I'm POSSIBLE」²⁾を担当している部署であり、教材の内容を含めた講義となり参加教員へ対し教育的な価値や意識付けを行うことができた。研修会には、美浜町教員45名と本学学生20名が参加した。

3) 大学内のパラリンピック教育に関する学習

安藤（2018）が報告しているように、本学では2018年度から講義や実技の一部においてパラリンピック教育に関する内容を行っている。講義ではパラリンピックの価値や意義の概念的な内容から、パラリンピック教育に関する全国や東京都などの取り組み事例や紹介等を行い、学生は現状を理解する。実技（ゼミ等も含む）の一部においては、主にIPC公認教材「I'm POSSIBLE」を活用して行っている。

4. 美浜町内パラリンピック教育の実施内容（2019年度）

1) プログラムの決定

2019年度から美浜町内全ての小中学校でパラリンピック教育が始まった。実施内容は、2018年度で美浜町教育委員会と打ち合わせを設けて検討を進め決定した。まず2020年以降も継続した活動となることを前提に考え、小中学校の先生方によるIPC公認教材「I'm POSSIBLE」を活用して座学を実施、そして実技に関しては大学が担当するとした。

岡田ら（2018）によると、オリンピック・パラリンピック教育を継続的に実施する上での課題とし

て「よい実践への準備」，「早期の計画立案」，「予算の確保」，「担当者の定着」，「教員の抵抗感の払拭」の5項目があげられている。また，予算的にオリンピックらを講師として呼べない場合の方法の1つとして「I'm POSSIBLE」の映像の活用が示されている。「I'm POSSIBLE」は，映像のみならず授業内容の指導案，教員用のガイドなどがついていることから，「よい実践への準備」，「教員の抵抗感の払拭」についても改善できる教材であると考えられる。さらに，どの教員においても実施できように分かりやすく作られていることから「担当者の定着」についても改善されると考えられる。以上のことから，美浜町内パラリンピック教育の実施にあたり，座学については「I'm POSSIBLE」を活用して小中学校の先生方へ担当を依頼した。

実技を大学が担当することは，大学での継続的な障害者スポーツやアダプテッドスポーツの学びの機会が多く，講義や実技でも数多く実施されていること，また教員養成を行っていることも背景となる。さらには，スポーツ庁や東京都で実施されているパラリンピック教育プログラムの事例がパラリンピアンによる指導がほとんどであったことに加え，美浜町教員講習会での先生方からのヒアリングにおいて

も，教員がパラリンピック競技のことを知らない・分からないことから実技は取り扱いにくいと回答があったことから，道具も揃っている大学の用具を活用して学生による実技指導を行うこととした。

座学と実技の対象は全学年とはせず，小学校は4年生，中学校は1年生とした。対象学年の決定は，学校のスケジュールにおいて組み込みやすいことを前提に校長会にて決定した。実施内容は，「I'm POSSIBLE」のユニットから実施校の担当教員が選択したものを各1時限実施することとした。実技に関しては，教材のない種目も希望がある場合は記述してもらいオリジナル教材を作成し対応した。

2) 実施内容等

2019年度に実施した日程と座学と実技内容を表1、表2に示す。実施日程は，小学校・中学校の希望から実技が担当できる日程を選択し調整した。日程調整の都合などで学年合同（複数のクラス合同）を希望する場合は，できるだけ希望に沿って実技を実施した。実技指導の様子を写真1～写真4に示す。実技においても「I'm POSSIBLE」の教材を活用し説明やワークシートを使用した。担当学生は，事前に指導練習を実施し対応した。

表1 2019年度 美浜町内小学校 パラリンピック教育の活動実績（小学校：6校）

※講義と実技内容に示されている数字は教材「I'm possible」の単元

区分	人数	日程・授業時限					座学内容（担任等が担当）	実技内容（大学生担当）	担当学生数
A小学校	28	10月10日	木	座学	3限	10:45 ～ 11:30	2-1 パラリンピックスポーツについて学ぼう！	2-2 シットイングバレー	5
				実技	4限	11:35 ～ 12:20			
B小学校	19	10月18日	金	座学	3限	10:50 ～ 11:35	1-1 パラリンピックってなんだろう？	2-4 ボッチャ	3
				実技	4限	11:45 ～ 12:30			
C小学校	15	11月22日	金	座学	3限	10:45 ～ 11:30	2-1 パラリンピックスポーツについて学ぼう！	2-4 ボッチャ	3
				実技	4限	11:35 ～ 12:20			
D小学校	26	12月9日	月	座学	1限	8:45 ～ 9:30	2-1 パラリンピックスポーツについて学ぼう！	2-4 ボッチャ	
				実技	2限	9:40 ～ 10:25			
E小学校	64 2クラス 合同	1月10日	金	座学	5限	13:45 ～ 14:30	1-1 パラリンピックってなんだろう？	2-4 ボッチャ	4
				実技	6限	14:40 ～ 15:25			
F小学校	7	1月14日	火	座学	5限	13:50 ～ 14:35	1-1 パラリンピックってなんだろう？	その他 車いすバスケ	3
				実技	6限	14:40 ～ 15:25			

表2 2019年度 美浜町内中学校 パラリンピック教育の活動実績（中学校：2校）

区分	人数	日程・授業時限				座学内容（担任等が担当）	実技内容（大学生担当）	担当学生数	
A中学校	58 2クラス 合同	11月12日	火	座学	1限	8:45 ～ 9:35	2-1 パラリンピックスポーツについて学ぼう！	2-4 ボッチャ	4
				実技	5限	13:35 ～ 14:25			
	59 2クラス 合同			座学	5限	13:35 ～ 14:25	2-1 パラリンピックスポーツについて学ぼう！	2-4 ボッチャ	4
				実技	6限	14:35 ～ 15:25			
B中学校	25	1月9日	木	座学	6限	14:30 ～ 15:20	1-3 公平について考えてみよう！	2-3 ゴールボール	3
		1月16日	木	実技	6限	14:30 ～ 15:20			
	50 2クラス 合同	1月16日	木	座学	6限	14:30 ～ 15:20	1-1 パラリンピックってなんだろう？	2-4 ボッチャ	6
		1月23日	木	実技	6限	14:30 ～ 15:20			



写真1 ボッチャの説明風景



写真3 I'm POSSIBLE 教材を使用して説明している様子



写真2 ボッチャの得点記入様子



写真4 シットティングバレーボールの練習

5. 今後の取組みと課題

本取組みが開始した2018年当時のパラリンピック教育の連携計画時点では、美浜町教育委員会から

美浜町内の小学校6校・中学校2校には「I'm POSSIBLE」の教材を案内しているが1校も使用していないという状況であった。実際に、各学校と

の打ち合わせの際には、「I'm POSSIBLE」が送られていることは一部の教員は認識していたが開封していない・開封したがそのまま箱に戻ししまっていたという状況あった。そのため、このパラリンピック教育を実施することは各学校の先生方に教材を知ってもらう良い機会となった。実際に授業で使用した教員からは、「教材がとても使いやすい」「映像が良かった」「クイズ形式で生徒は楽しく学ぶことができた」「パラリンピックについて興味を持った生徒が増えた」等のコメントが得られた。

また、講義と実技を行ったことで「よりパラリンピックの理解が深まった」「特別支援学級の生徒も一緒に活動できて良かった」「生徒からまたやりたいという声が数多くあった」と、パラリンピック競技体験を通じて障害者スポーツを身近に感じてもらえるような取り組みとなったと考えられる。

障害の理解に関しては、「パラリンピックの学習を通じて生徒の障害がある方に対しての印象が変わったように感じた」という意見もあげられた。しかし、「パラリンピック競技には関心をよせる生徒が増えたと感じたが、障害者に対する関心へつながったかというところではなかったように思った。これまでの学校の取り組みを反省した」といったように、この講義と実技をそれぞれ1回実施するだけのパラリンピック教育では障害の理解につなげることは難しいとの意見もあり、他の科目（総合的な学習の時間や道徳等）での障害理解の取り組みと一緒に考えることが必要であることが課題となった。さらには、「講義については専門の先生に担当していただけると意欲・関心が高まるのではないか」という意見もあり、講義に関する内容についても事前講習や個別の打ち合わせ等を設ける必要性も感じた。

2020年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により、実施が危ぶまれていたがパラリンピック教育の実践を希望する学校のみを対象として、感染予防対策を十分に行った上で、継続的なパラリンピック教育が実現した。昨年度より2校減り6校での実施となったが、2021年度は問題がなければ初年度同様に対象は全学校となる予定である。

2019年度に美浜町全ての小中学校に実施したこ

とで、ある学校の教務主任の先生より、小学校で実施する実技と中学校で実施する実技を決めてはどうか？という意見があげられた。各学校の担当する先生方の希望する実技種目を実施していたことから、地域での内容が異なっていたため提案された意見であった。小学校では別の校区であったが、中学校で一緒になった際に体験した種目が異なって良いかということであった。次回の美浜町内の教務主任会議にて検討することとなり、この検討は地域としての学びにつながる内容として各学校の先生方に認知されてきたという良い効果と捉えて、2020年度の対象学校と2021年度以降の取り組みにつなげていきたい。

大学として期待される成果は、大学生が実際の生徒の皆さんに対して指導を行うことで学生の実践力の向上や視野の広がり、学習意識向上などが見込めると考えられる。そして今後、そのパラリンピック教育を実践した教員希望の学生が、卒業後教員となり配属された学校においても学校の方針が合えばパラリンピック教育に取り組めるのではないかという期待ができる。また、教員希望の学生でなくても、パラリンピックの価値や意義を理解することで、卒業後に公務員や企業等の就職先でも役立つことは多い。地域での学び以外においても、本学学生の卒業後にもつながる取り組みとなるよう、2021年以降も継続して実施していきたい。

6. まとめ

2018年からの大学と連携した地域でのパラリンピック教育の取組事例を報告した。今後も、美浜町内小中学校での指導実績を重ね、小中学校が継続的なパラリンピック教育の活動が行えるよう、大学と教育委員会が連携して実施していきたいと考えている。また、小・中学校の現職教諭を集めたパラリンピック教育の講習会の実施を計画するなど、学習の場を提供していくことを検討していく。さらには、大学での様々なパラリンピック等障害者スポーツ関連イベントを実施し、よりパラリンピックの魅力を感じる機会を提供していく。そして、美浜町民の障害理解の促進やインクルーシブな地域となることを

大学と地域で一緒に目指し推進していきたいと考えている。

付記

本研究は、2018年度日本福祉大学教育改革推進公募制度「パラリンピック教育の実践」に対する助成を受けて実施したものである。

参考文献

- ・東京2020組織委員会「「よい、ドン！スクール」とは（東京2020教育プログラム学校事業認証）」<https://education.tokyo2020.org/jp/about/yoi-don-school/#school>（参照日：2020年10月10日）
- ・吉永武史（2020）「オリンピック・パラリンピック教育2020 その先へ①：オリンピック・パラリンピック教育のこれまでとこれから」『体育・保健体育ジャーナル』第7号，P1-4
- ・美浜町「東京2020オリンピック・パラリンピックホストタウン事業」<https://www.town.aichi-mihama.lg.jp/docs/2020071300012/>（参照日：2020年10月10日）
- ・安藤佳代子（2018）「大学におけるパラリンピック教育の学習事例について～IPC公認教材「I'm POSSIBLE」を活用した取り組み～」『日本障がい者体育・スポーツ研究会』第42集，pp20-21
- ・岡田悠佑，友添秀則，深見英一郎，吉永武史，根本想（2018）「日本におけるオリンピック・パラリンピック教育の促進方法に関する研究：オリンピック・パラリンピック教育を実施した教員の視点に着目して」『体育学研究』63,pp871-833

<資料>

1)「あすチャレ！ School」

日本財団パラリンピックサポートセンターが実施しているパラアスリートが講師となって子ども達と一緒にスポーツを行う学べるプログラム。プログラムから、他者のことを自分ごととして考える心，障害とはなにか，可能性に挑戦する勇気，「夢」や「目標」を持つ力を学びの内容としている。複数の講師が日本全国を回っている。

2) 国際パラリンピック委員会公認教材「I'm POSSIBLE」

パラリンピックの魅力や価値を伝え，パラリンピックムーブメントを推進することを目的として作成された教育教材で国際版と日本版がある。日本版は，国際パラリンピック

委員会とアギトス財団が日本パラリンピック委員会や日本財団パラリンピックサポートセンターと協力して作成された。

教材は，座学と実技の2部で構成されており，障害当事者やパラリンピック関係者がいなくても授業ができるように工夫されている。教材は，2017年度から全国の小学校への配布を開始し，2018年度からは新たな教材も追加され中学校，高等学校，特別支援学校などにも配布されるなど，全国に広く普及されている教材となっている。毎年追加授業分が配布され2020年6月に全ユニットの教材が配布完了している。2017年7月には東京2020教育プログラム「よい、ドン！」の公式教材として指定され，ダウンロードも可能となった。